



MAGAZINE

記事を探す



TOP > 名優マガジン > コラム >

尿道カテーテルとは？仕組みや痛み・尿意、バッグ・ホルダーの管理などを解説します。

コラム

尿道カテーテルとは？仕組みや痛み・尿意、バッグ・ホルダーの管理などを解説します。

2026.10.02 #カテーテルホルダー #尿道カテーテル



尿道カテーテルは、尿道から膀胱へ細い管を入れ、膀胱にたまった尿を体外へ排出するための医療機器です。一定期間入れたままにする尿道

留置カテーテルでは、膀胱内のバルーンで位置を保ち、尿を採尿バッグへ流します。

カテーテルが入っていると、「尿意があるのはおかしいのでは」「この痛みは我慢してよいのか」「バッグやホルダーはどう扱えばよいのか」「抜くときは痛いのか」と不安になることがあります。この記事では、成人の尿道留置カテーテルを中心に、仕組みや男女差、留置中の尿意・痛み、バッグと固定具の管理、皮膚トラブル、抜去時の考え方を整理します。

強い痛み、尿が流れない状態、発熱や悪寒、目立つ血尿、カテーテルの脱落などがある場合は、記事だけで原因を判断せず、担当の医師・看護師・訪問看護師などへ相談してください。

公開日：2026年10月2日

1. 尿道カテーテルとは

1.1. 尿を膀胱から体外へ流す仕組み

1.1.1. バルーンは膀胱内でカテーテルを保持する

1.1.2. 尿はカテーテルを通してバッグにたまる

1.2. 留置カテーテルが使われる場面

2. 女性と男性で尿道カテーテルはどう違うか

2.1. 男女で異なる尿道の構造

2.2. 挿入時の痛みに影響する要因

2.2.1. 痛みの程度は男女差だけでは決まらない

3. 留置中に尿意や痛みを感じる理由

3.1. カテーテル関連膀胱不快感と膀胱けいれん

3.1.1. カテーテルやバルーンの刺激で尿意に似た感覚が出ることがある

3.1.2. 膀胱けいれんでは痛みや尿漏れを伴うことがある

3.2. 痛みがあるときに確認したいこと

3.2.1. チューブの屈曲・牽引・尿の流れを確認する

3.2.2. 強い痛みや続く痛みは自己判断せず相談する

4. 尿バッグとホルダーの管理ポイント

4.1. 採尿バッグの位置と尿の流れ

4.1.1. バッグは膀胱より低い位置に保つ

4.1.2. チューブの折れやねじれを避ける

4.2. ホルダー・固定具の役割

4.2.1. 固定はカテーテルの牽引と移動を減らすために行う

5. 皮膚トラブルへの対策と尿道口周囲の清潔ケア

5.1. 固定部に起こる赤み・剥離・痛み

5.1.1. 固定部の皮膚を定期的に観察する

5.1.2. むくみや皮膚の弱さがある場合は固定方法を医療者と見直す

5.2. 尿道口周囲の清潔を保つ考え方

5.2.1. 留置中は日常の清潔ケアを基本にする

6. 尿道カテーテルを抜くときはどうなるか

6.1. 抜去時のバルーン処理

6.1.1. 抜去前に保持用バルーンをしぼませる

6.2. 抜去時に痛みや抵抗がある場合

6.2.1. 強い抵抗があるときは無理に引かない

7. 医療者へ相談したい尿道カテーテルのトラブル

7.1. 早めに連絡したい変化

7.1.1. 尿が流れない・バッグに尿がたまらない

7.1.2. 強い痛み・発熱や悪寒・目立つ血尿がある

7.1.3. カテーテルが抜けた・尿漏れが続く

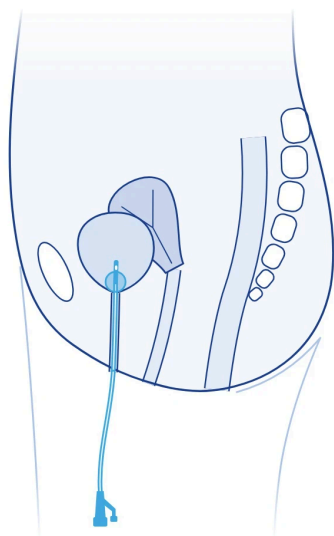
8. まとめ

9. 参考出典

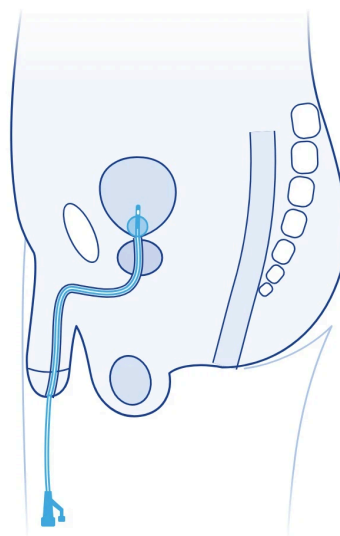
10. 関連製品 | カテーテルホルダー



尿道カテーテルとは



女性の尿道カテーテル



男性の尿道カテーテル

尿道カテーテルとは、尿道を通して膀胱に管を入れ、尿を体外へ排出するための医療機器です。排尿が難しい場合のほか、手術中や術後、尿量を継続して把握する必要がある場合などに使われます。

一定時間ごとに挿入して尿を排出する方法とは異なり、尿道留置カテーテルは必要な期間、膀胱内に留置します。ただし、留置期間や必要性は患者の状態によって異なります。

尿を膀胱から体外へ流す仕組み

尿道留置カテーテルは、膀胱内の尿をカテーテルの内腔へ導き、その先につながった採尿バッグなどへ排出する仕組みです。

通常の排尿では、膀胱に尿がたまると膀胱が収縮し、尿道から尿が排出されます。留置カテーテルが入っている場合は、尿がカテーテルを通して体外

へ流れます。



バルーンは膀胱内でカテーテルを保持する



一般的な尿道留置カテーテルには、先端付近に小さなバルーンがあります。カテーテルを適切な位置まで挿入した後、このバルーンを膀胱内で膨らませ、カテーテルが簡単に抜け落ちないように保持します。

バルーンは尿道の途中で膨らませるものではありません。また、患者自身が膨らませたり、しばませたりすることを前提としたものでもありません。違和感や牽引感があっても、自分でカテーテルを引っ張ったり、バルーンを操作したりせず、医療者へ相談してください。

尿はカテーテルを通してバッグにたまる

膀胱内の尿はカテーテルを通して体外へ流れ、接続された採尿バッグにたまります。バッグを使用するシステムでは、重力を利用して尿が流れやすい状態を保つことが基本です。

尿がバッグへ流れにくいときは、チューブの折れやねじれ、バッグの位置など、外から確認できる部分に原因があることもあります。一方、閉塞など医療者による評価が必要な場合もあります。尿が出ないからといって、自己判断でカテーテルを操作するのは避けてください。

留置カテーテルが使われる場面

尿道留置カテーテルは、排尿が難しい場合だけでなく、手術や重症管理などで尿量を継続的に把握する必要がある場合にも使われます。

一方、尿道留置カテーテルには感染や尿道への負担などのリスクがあります。「入れておけば便利」という理由だけで使うものではなく、必要性を評価しながら使用期間を適切に管理することが基本です。

女性と男性で尿道カテーテルはどう違うか

尿道カテーテルの基本的な目的は男女で共通しています。ただし、尿道の長さや位置などの解剖学的な違いがあるため、挿入時の手技には差があります。

一方、「男性だから必ず痛い」「女性なら痛くない」といった単純な分け方はできません。痛みや不快感には、解剖学的な違いだけでなく、緊張、炎症、カテーテルによる刺激、処置時の状況など複数の要因が関係します。

男女で異なる尿道の構造

女性の尿道は男性より短く、外尿道口から膀胱までの距離が比較的短い構造です。一方、男性の尿道は女性より長いため、挿入時には男女で異なる解剖学的配慮が必要です。

この違いによって、カテーテルを挿入するときの長さや操作にも差があります。挿入は、医療者が患者の状態を確認しながら行う処置です。一般向けの記事などを参考に、自分や家族へ尿道カテーテルを挿入することは避けてください。

挿入時の痛みに影響する要因

カテーテルを尿道へ通すため、挿入時に刺激や不快感を感じる人はいます。ただし、その感じ方には個人差があります。



痛みの程度は男女差だけでは決まらない

挿入時に感じる痛みや不快感は、男女差だけで予測することはできません。解剖学的な特徴に加え、緊張、炎症、処置時の状態なども関係します。

痛みが強い場合に、我慢することが前提ではありません。処置中であれば、その場で医療者へ伝えてください。留置後も強い痛みが続く場合は、挿入時の一時的な刺激とは別の原因がないか確認が必要になります。

留置中に尿意や痛みを感じる理由

「カテーテルから尿が出ているのに、どうして尿意があるのだろう」と疑問に感じる場合があります。

尿道留置カテーテルが入っていても、膀胱や尿道からの感覚そのものがなくなるわけではありません。カテーテルやバルーンから受ける刺激に関連して、尿意に似た感覚、膀胱の不快感、痛みが生じる場合があります。

カテーテル関連膀胱不快感と膀胱けいれん

留置カテーテルに伴って起こる不快感は、catheter-related bladder discomfort (CRBD) と呼ばれることがあります。また、膀胱が不随意に収縮する膀胱けいれんによって、不快感や痛みが生じる場合もあります。

ただし、留置中に起こる痛みや尿意のすべてを、CRBDや膀胱けいれんだけで説明できるわけではありません。尿の流れが妨げられている場合など、別の問題でも似た症状が出る場合があります。



カテーテルやバルーンの刺激で尿意に似た感覚が出ることがある

カテーテルや膀胱内のバルーンによる機械的な刺激によって、尿が十分にたまっていなくても「トイレに行きたい」と感じるような尿意や、下腹部の不快感が生じることがあります。

尿意があるという理由だけで、すぐに「カテーテルが機能していない」と判断することはできません。ただし、尿意が非常に強い、痛みを伴う、バッグへ尿が流れていないといった変化が重なっている場合は、そのまま様子を見続けず医療者へ伝えてください。

膀胱けいれんでは痛みや尿漏れを伴うことがある

膀胱けいれんが起これば、下腹部に周期的な痛みや、締め付けられるような感覚が現れることがあります。状況によっては、カテーテルの周囲から尿が漏れることもあります。

ただし、尿漏れの原因が必ず膀胱けいれんとは限りません。カテーテルやチューブの状態を含めて確認が必要になる場合があるため、漏れが続くときは担当医療者へ相談してください。

痛みがあるときに確認したいこと

留置中の痛みには複数の原因があり、一般向けの記事などを参考に独自に判断することはできません。ただし、カテーテルやバッグの外側で確認できる状態を見ておくと、医療者へ状況を伝えやすくなります。

チューブの屈曲・牽引・尿の流れを確認する

まず、カテーテルにつながるチューブが強く折れ曲がっていないか、身体や衣服などに引っ張られていないか、バッグへ尿が流れているかを目で確認します。

確認するのは、外から安全に見える範囲にとどめます。カテーテルを押し込む、強く引っ張る、接続を不用意に外すといった操作は行わないでください。

強い痛みや続く痛みは自己判断せず相談する

強い痛みや、それまでなかった痛みが続く場合は、「カテーテルが入っているから仕方ない」と決めつけないことが大切です。

痛みの背景には、膀胱への刺激だけでなく、尿の流れの問題やカテーテルによる局所への負担など、確認が必要な状態が含まれることがあります。

症状が強い場合や改善しない場合は、担当の医師や看護師などへ相談してください。

尿バッグとホルダーの管理ポイント

尿道留置カテーテルでは、カテーテル本体だけでなく、採尿バッグ、チューブ、固定具まで含めて一つのシステムとして管理します。

日常管理で確認したいのは、尿が流れやすい状態になっていることと、カテーテルが不必要に引っ張られていないことです。

採尿バッグの位置と尿の流れ

採尿バッグの位置が適切でなかったり、チューブが折れ曲がったりすると、尿がスムーズに流れにくくなる場合があります。

そのため、バッグとチューブの状態を日常的に確認します。



バッグは膀胱より低い位置に保つ

一般的な採尿バッグでは、尿が重力で流れるよう、バッグを膀胱より低い位置に保つことが基本です。また、バッグは床へ直接置かないようにします。

移動時や就寝時はバッグの位置が変わりやすいため、入院先や在宅療養で指示された方法に従って固定してください。

チューブの折れやねじれを避ける

チューブが身体の下敷きになったり、大きく折れ曲がったりすると、尿の流れが妨げられることがあります。

ベッド上で体の向きを変えたとき、椅子へ移ったとき、歩いた後などには、チューブが強くねじれたり引っ張られたりしていないか確認します。

尿が流れない状態が続く場合は、チューブを無理に操作せず、医療者へ相談してください。

ホルダー・固定具の役割

尿道カテーテルは、身体の動きに合わせて大きく動いたり、強く引っ張られたりしないよう、専用の固定具やテープなどで固定されることがあります。

固定の目的は、単にカテーテルを動かなくすることではありません。尿道や周囲組織へ不要な牽引がかからないようにし、安定した状態を保つことが重要です。

固定はカテーテルの牽引と移動を減らすために行う

カテーテルが繰り返し引っ張られると、尿道口周囲などに負担がかかります。そのため、カテーテルの移動や牽引を抑える目的で固定します。



ただし、強く固定すればするほどよいわけではありません。締め付けや粘着材によって皮膚トラブルが起こることもあるため、固定位置や方法は患者の皮膚状態や使用器具に合わせて選びます。

確認する場所	日常的に見るポイント	避けたい状態
採尿バッグ	膀胱より低い位置にあるか	膀胱より高い位置、床への直置き
チューブ	尿が流れ、折れやねじれがないか	身体の下敷き、強い屈曲
カテーテル・固定部	強く引っ張られていないか	強い牽引、締め付け
皮膚	赤み、痛み、剥離などがなにか	異常を我慢したまま同じ部位へ強く固定
尿の流れ	バッグへ尿が流れているか	流れない状態が続く

皮膚トラブルへの対策と尿道口周囲の清潔ケア

カテーテルの固定部では、粘着剤、圧迫、摩擦などの影響で、皮膚に赤みや痛み、剥離などが起こることがあります。

特に皮膚が弱い人や、むくみがある人、長期間にわたって固定具を使用する人では、皮膚の状態を継続して観察することが重要です。

固定部に起こる赤み・剥離・痛み

固定具を剥がした部分に強い赤みが残る、皮膚がめくれる、水疱ができる、触れると痛むといった変化がある場合は、単なる「テープ跡」と決めつけず

に観察します。



固定部の皮膚を定期的に観察する

固定具を使用している部位では、皮膚の色、赤み、腫れ、水疱、剥離、痛みなどを確認します。

固定具の下が見えない場合でも、周囲の皮膚に異常がないかを確認し、違和感や痛みが出てきた場合は医療者へ伝えてください。

皮膚障害が疑われるときは、自己判断で同じ場所へ強く貼り直すのではなく、固定位置や器材を変更できるか相談します。

むくみや皮膚の弱さがある場合は固定方法を医療者と見直す

むくみや皮膚の脆弱性がある場合、固定具による圧迫や粘着剤の影響を受けやすくなる場合があります。

固定が必要だからといって、皮膚障害を我慢する必要はありません。皮膚の状態に応じて、固定方法や固定部位、使用する器材を医療者と見直すことが大切です。

尿道口周囲の清潔を保つ考え方

尿道留置カテーテルを使用している間は、尿道口周囲を適切に清潔に保つことが基本です。ただし、挿入時に行う消毒と、留置中の日常的な清潔ケアは同じものではありません。

留置中は日常の清潔ケアを基本にする

維持管理中は、通常の日常的な清潔ケアを基本とし、尿道口周囲を清潔な状態に保ちます。

具体的な洗浄方法や頻度は、入院中か在宅か、皮膚の状態、使用している器材などによって異なる場合があります。担当施設や医療者から指示を受けている場合は、その方法を優先してください。

尿道カテーテルを抜くときはどうなるか

尿道留置カテーテルを抜くときは、膀胱内でカテーテルを保持しているバルーンをしぼませてから抜去します。

「抜くときが怖い」と感じる人もいますが、保持用バルーンを膨らませたまま強く引き抜く処置ではありません。適切な手順でバルーンをしぼませたうえで行います。

また、抜去後に排尿状態を確認する必要がある場合もあります。いつ抜くかも含めて、患者の状態を見ながら医療者が判断します。

抜去時のバルーン処理

留置中のカテーテルは、膀胱内のバルーンによって保持されています。抜去するときは、その保持を解除してからカテーテルを取り出します。

抜去前に保持用バルーンをしぼませる

尿道留置カテーテルを抜去する前には、バルーンをしぼませる必要があります。

この操作は、カテーテルの構造や患者の状態を理解したうえで行う必要があります。一般向けの記事などを参考に、患者や家族が自己抜去すること

は避けてください。



抜去時に痛みや抵抗がある場合

カテーテルの抜去は、無理な力を加えて行うものではありません。予定どおり抜けない場合には、原因を確認する必要があります。

強い抵抗があるときは無理に引かない

抜去時に強い抵抗がある場合は、無理に力を加えて引き抜くべきではありません。

「もう少し強く引けば抜けるだろう」と判断すると、尿道へ負担をかける可能性があります。抜去中に強い痛みや抵抗がある場合は、医療者が状態を確認します。

自宅でカテーテルに問題が起きた場合も、自分で引き抜かず、あらかじめ案内されている連絡先へ相談してください。

医療者へ相談したい尿道カテーテルのトラブル

留置中にはある程度の違和感が生じることがありますが、すべての症状を「カテーテルが入っているから仕方ない」と考えるのは適切ではありません。

尿が流れなくなった、強い痛みがある、発熱や悪寒がある、目立つ血尿がある、カテーテルが抜けたといった場合には、医療者による確認が必要になることがあります。

早めに連絡したい変化

緊急度は患者の病状や処置内容によって異なります。普段と違う変化があった場合は、どのような症状がいつからあるか、尿がバッグへ流れているか、尿の色に変化があるかなどを確認して医療者へ伝え、状況を共有しやすくなります。

尿が流れない・バッグに尿がたまらない

それまで流れていた尿が急にバッグへたまらなくなった場合は、まず外から確認できる範囲で、チューブに大きな折れやねじれがないか、バッグの位置が適切かを確認します。

それでも尿が流れない場合や、下腹部の張り・痛みを伴う場合は、閉塞などを含めた評価が必要になることがあります。

カテーテルを押し込む、抜く、内部を洗浄するなどの処置を自己判断で行わず、担当医療者へ連絡してください。

強い痛み・発熱や悪寒・目立つ血尿がある

強い下腹部痛や尿道の痛み、発熱や悪寒、目立つ血尿などは、医療者へ相談したい変化です。

これらの症状があっても、感染症や尿道損傷と判断することはできません。症状の程度や患者の基礎疾患によって対応は異なるため、担当医療者の判断を受けてください。

カテーテルが抜けた・尿漏れが続く

留置していたカテーテルが意図せず抜けた場合は、自分で元に戻したり、再挿入したりしないでください。

また、カテーテルの周囲から尿が漏れる状態が続く場合も、膀胱けいれんだけでなく、別の原因が関係している可能性があります。

カテーテルが抜けたときや尿漏れが続くときは、担当医療者へ連絡して指示を受けてください。

状況	自分で確認できる範囲	対応の考え方
尿がバッグへ流れない	チューブの大きな折れ・ねじれ、バッグ位置	改善しない、痛みや張りを伴う場合は医療者へ連絡
強い痛みが続く	牽引されていないか、尿の流れ	「カテーテルだから」と決めつけず相談
発熱・悪寒がある	症状が始まった時期、尿の状態	感染と自己診断せず医療者へ相談
目立つ血尿がある	色や量の変化	医療者へ相談
カテーテルが抜けた	抜けた状況	自己再挿入せず連絡
尿漏れが続く	チューブの状態、尿の流れ	原因を決めつけず相談

まとめ

尿道留置カテーテルを使用している間は、尿の流れ、チューブの折れや牽引、採尿バッグの位置、固定部の皮膚状態などを日常的に確認します。

あわせて、強い痛みや尿が流れない状態など、「普段と違う変化」が起きたときの連絡先をあらかじめ確認しておくことも大切です。

尿道カテーテルは、正しい位置に入っているか、どの程度の期間が必要か、トラブルが起きていないかを医療者と確認しながら使用する器具です。仕組

みを知っておくことで、必要以上に不安を抱えずに済む一方、見逃したくない変化にも気づきやすくなります。

参考出典

- [European Association of Urology Nurses. Indwelling catheterisation in adults – Urethral and suprapubic. 2024.](#)
- [Patel PK, Advani SD, Kofman AD, et al. Strategies to prevent catheter-associated urinary tract infections in acute-care hospitals: 2022 Update. Infection Control & Hospital Epidemiology. 2023;44\(8\):1209-1231.](#)
- [Centers for Disease Control and Prevention. Summary of Recommendations: Catheter-associated Urinary Tract Infection.](#)
- [MedlinePlus Medical Encyclopedia. Urinary catheters.](#)
- [NHS. Living with a urinary catheter.](#)
- [Padval G, Kaur J. Interventions for the Management of Bladder Spasms in Adults with Indwelling Urinary Catheters: A Nursing Practice-Oriented Systematic Review. Investigación y Educación en Enfermería. 2026;44\(1\):e13.](#)
- [Cameron AP, Werneburg GT. Foley Catheter Management: A Review. JAMA Surgery. 2025;160\(6\):701-707.](#)
- [Calpe-Damians N, Wennberg-Capellades L, Ventura-Rosado A, et al. Effectiveness and safety of a simple catheter securement device aimed at preventing catheter-associated urinary tract infection in intensive care unit patients: A randomized controlled trial. Nursing in Critical Care. 2024;29\(6\):1788-1798.](#)
- [Frota OP, Paula FM, Ferreira DN, et al. Incidence, characteristics and influencing factors of medical adhesive-related skin injury in the indwelling urinary catheter attachment re](#)

gion in critically ill patients: A longitudinal study. Nursing in Critical Care. 2025;30(2):e13253.

- 一般社団法人日本臨床泌尿器科医会. EAUNガイドライン日本語版2024「成人における膀胱留置カテーテルに関する欧州泌尿器科看護協会ガイドライン」.

関連製品 | カテーテルホルダー



長時間使用しても血行を妨げない、肌に優しいカテーテルホルダーです。不意の牽引による痛みや損傷リスクを低減します。また、面ファスナーにより「α固定」の要領で適度な遊びを持たせた固定を簡単にすることができ、絆創膏やテープを使うことによる皮膚トラブルを防ぎます。脚用と腰用の2種類があります。

製品名：カテーテルホルダー

製品ページ：<https://meilleur.co.jp/product/foley-catheter-holder/>



よくある質問

Q 尿道カテーテルが入っていても尿意を感じることはありますか？

A. あります。カテーテルやバルーンによる膀胱への刺激などにより、尿意に似た感覚や膀胱の不快感が生じることがあります。ただし、強い痛みや尿が流れない状態を伴う場合は、医療者へ相談してください。

Q バルーンは何のために入っているのですか？

A. 留置カテーテルを膀胱内の適切な位置に保つためです。患者自身でバルーンを操作したり、カテーテルを引き抜いたりしないでください。

Q 採尿バッグはどこに置けばよいですか？

A. 一般的には、尿が流れやすいよう膀胱より低い位置に保ち、床へ直接置かないようにします。実際の固定方法は使

用器具や療養環境によって異なるため、医療者から受けた指示を優先してください。



Q 尿道カテーテルが痛いとき、自分で抜いてもよいですか？

A. 自己判断で抜かないでください。強い痛みや続く痛みには、確認が必要な原因が含まれることがあります。担当の医師や看護師などへ相談してください。



この記事の筆者
名優 編集部



次の記事 >

一覧に戻る



製品カタログ一覧



お問い合わせ